（別紙様式4）

令和8年5月1日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
専門学校日産愛知自動車大学校	平成5年3月23日	井出　泰男	〒　455-0015 （住所）　愛知県名古屋市港区港栄1丁目7番12号 （電話）　052-653-4123
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地
学校法人　日産学園	昭和58年2月15日	杉本　全	〒　329-0604 （住所）　栃木県河内郡上三川町上郷南西原2012 （電話）　0285-56-3585

分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
工業	工業専門課程	自動車整備・カーボディマスター科	令和 2(2020)年度	－	令和 4(2022)年度

学科の目的	自動車整備及び車体整備（板金・塗装）に関する専門的技術及び理論を教育し、整備技術の進歩発展を通じて、社会に貢献できる人間性豊かな整備士を育成する
学科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	基本的な自動車整備に加え板金塗装などの車体整備を学ぶぶことができる。 取得可能な資格：国家二級整備士（ガソリン・ジーゼル）、国家車体整備士、国家二級二輪整備士、有機溶剤、ガス溶接 退学率：5 %（学生期初数　41名）

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	923 単位時間	単位時間	1,877 単位時間	単位時間	単位時間
		2,800 単位時間					
		単位	単位	単位	単位	単位	単位

生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数（生徒実員の内数）(B)	留学生割合(B/A)	中退率
75 人	41 人	1 人	2%	5 %

就職等の状況

■卒業者数 (C)	16	人
■就職希望者数 (D)	16	人
■就職者数 (E)	16	人
■地元就職者数 (F)	4	人
■就職率 (E/D)	100	%
■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)	25	%
■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)	100	%
■進学者数	0	人

■その他

なし

（令和　　7 年度卒業者に関する令和８年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和7年度卒業生）

日産プリンス三重販売（株）、三河日産自動車（株）、日産車体（株）、三重日産自動車（株）

第三者による学校評価

■民間の評価機関等から第三者評価：　無

※有の場合、例えば以下について任意記載

評価団体：　　受審年月：　　評価結果を掲載したホームページＵＲＬ

当該学科のホームページURL

https://www.nissan-gakuen.ac.jp/aichi/course/carbody-master.html

企業等と連携した実習等の実施状況（A、Bいずれかに記入）

（A：単位時間による算定）

総授業時数	2,800 単位時間
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	1,363 単位時間
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間
うち必修授業時数	2,800 単位時間
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	1,363 単位時間
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	0 単位時間

（B：単位数による算定）

総単位数	0 単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位
うち企業等と連携した演習の単位数	単位
うち必修単位数	単位
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位
（うち企業等と連携したインターンシップの単位数）	単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	9 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	1 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	0 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	4 人
計		14 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	8 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

卒業生の就職先である自動車整備業界の要請に応じ、実践的かつ専門的な職業教育を組織的に実践するために、また日々進化する自動車技術に対応するために、企業等と定期的な会合を持ち、要請内容を把握し、具体的な授業科目や授業内容の編成に落とし込むことを基本方針とする。また企業等に協力をいただき、卒業生に対する定期的なアンケートを実施し、教育の成果を把握し、授業編成に反映する。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
本委員会は、日産愛知自動車大学校内に設置し、教育課程編成委員会で編成した教育課程を基本に、カリキュラムを策定する。
カリキュラムの策定については、教育課程編成委員会の意見を、学内で審議したのち、教育部長の許可を経て決定する。
委員会は、次の各号に掲げる観点から教育課程の編成に係る提案を行う。
（1）就職先の業界における人材の専門性に関する動向
（2）国又は地域の産業振興の方向性
（3）新産業の成長に伴い新たに必要となる実務に関する知識、技術、技能
（4）その他、教育課程の編成に関する事項

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年5月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
新名　尚隆	日産自動車株式会社 グローバル アフターセールス エンジニアリング部	令和8年4月1日～ 令和10年3月31日（2年）	③
村井　寿伸	愛知県自動車車体整備協同組合　専務理事	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日（2年）	①
西　和幸	愛知県自動車整備振興会　教育部　部長	令和8年4月1日～ 令和10年3月31日（2年）	①
小出　学	日産東海テクノ株式会社　工場長	令和8年4月1日～ 令和10年3月31日（2年）	③
山口　純丙	日産愛知販売株式会社　課長	令和8年4月1日～ 令和10年3月31日（2年）	③
寺沢　広高	日産サービスセンタ株式会社　課長	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日（2年）	③
井出　泰男	日産愛知自動車大学校　校長	令和8年4月1日～ 令和10年3月31日（2年）	ー
武内　健二	日産愛知自動車大学校　教頭	令和8年4月1日～ 令和10年3月31日（2年）	ー
中務　健之	日産愛知自動車大学校　教育部　課長	令和8年4月1日～ 令和10年3月31日（2年）	ー
中川　安行	日産愛知自動車大学校　学務部　課長	令和8年4月1日～ 令和10年3月31日（2年）	ー
上谷　晃一	日産愛知自動車大学校　教育部　課長代理	令和8年4月1日～ 令和10年3月31日（2年）	ー
田中　勇樹	日産愛知自動車大学校　教育部　課長代理	令和8年4月1日～ 令和10年3月31日（2年）	ー
			ー

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
（年間の開催数及び開催時期）

年2回 （7月、2月）

（開催日時（実績））
第1回　令和7年7月7日　13:30～15:30
第2回　令和7年3月5日　13:30～15:50

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
新資格制度が始まることについて授業実施の状況を教えていただきたい。
・教科書がガソリンエンジンとジーゼルエンジンが混在する構成となったため、教える際にその区分け説明が必要。
また、内容が簡素化されたため、旧教科書の内容も残しつつ授業を行っている。
二輪内容も組み込まれたため、その工夫も必要。特にシャシ分野では作動説明があるため、実習にて授業を組み込む。

・別授業となるが教科担当が分かれているため、その混乱は発生していない。
旧制度の2年生が留年した場合は新制度に合流するため、補う授業が発生する。

また各方面の委員の方より①現場での整備記録簿の重要性について、②ICT活用につて、③接客力と日本語能力が課題とご質問やご指摘をいただいた。
・実習での整備記録簿記載を本格化させるとともに、Chromebookを用いたデジタル管理もカリキュラムに組み込んだ。
・新設の国際科では、週1回の日本語専門授業を導入し、JLPT N2/N3取得だけでなく、現場でのコミュニケーション向上に主眼を置いた構成とした。また、レポートもあえて『手書き』にすることで、漢字や筆記能力の定着も図る。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
実務で求められる知識や新技術などの企業等からの要望を踏まえて、より実務的なことも、実習・演習等にとりいれて、就職後に活かせるように企業等と連携していくことを基本方針とする

（2）実習・演習等における企業等との連携内容
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
日産サービス資格に関して「日産自動車株式会社」と協定書を取りかわし、その協定書に従い、定めた技術能力要件を実習授業で身につける。学習成果の評価としては、学科及び実技試験を行い評価する。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	企業連携の方法	科　目　概　要	連　携　企　業　等
車両1D	5. その他※具体的な連携方法を科目概要欄に記述すること。	1.実習授業で車両を取り扱う方法と注意点を学び、実際のお客さまの車両を取り扱うことへつなげる目的で行う。 2.法定1年点検が販社で定められた基準時間内でできることを目的で行う。 3.ディスク・ブレーキ・パッドの交換ができることを目的で行う。 4.お客さま応対（電話応対） 5.計器装置の構成部品、作動を理解する。	日産自動車株式会社
エンジン2A	5. その他※具体的な連携方法を科目概要欄に記述すること。	1.ガソリンエンジンの電子制御（噴射、スロットル、点火等）を理解する。 2.コンサルト（ダイアグノーシス）で自己診断、アクティブテスト等ができる。 3.コンサルトを使用して故障探求ができる。	日産自動車株式会社
車両2A	5. その他※具体的な連携方法を科目概要欄に記述すること。	1.実習授業で車両の取り扱い方法と注意点を学び、実際のお客さまの車両を取り扱うことへつなげる目的で行う。 2.重量物脱着を行う場合の作業方法、そのときの注意点を学ぶために行う。 3.共同作業の大切さを学ぶために行う。 4.繊細な作業、大胆な作業の判断を付けるために行う。	日産自動車株式会社

車両2B	5. その他※具体的な連携方法を科目概要欄に記述すること。	1.パワーウインドウの概要・回路を理解する。 2.ドアロックの概要・回路を理解する。 3.ドアミラーの概要・回路を理解する。 4.車両から指定された部品の取り外し、組み付け調整が行える。	日産自動車株式会社
シャシ2C	5. その他※具体的な連携方法を科目概要欄に記述すること。	1.制動倍力装置の構造、作動を理解する。 2.エア・ブレーキの構造、作動を理解する。 3.整備結果説明を理解する。	日産自動車株式会社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「日産・自動車大学校　教員研修規定」及び「日産学園教職員教育体系」に基づき、計画的に教員研修を実施する。
教員の自己啓発、自己研鑽にとどまらず、企業と連携した専門分野における実務や指導力の習得・向上に繋がる研修を学校として継続的に支援・実施することを基本方針とする。

（2）研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	エンジン応用講座	連携企業等：	日産自動車株式会社
期間：	2025年9月2日、3日	対象：	教員
内容	不具合エンジンのデータ解析、故障診断実習		
研修名：	電動パワートレイン	連携企業等：	日産自動車株式会社
期間：	2025年4月15日～2025年4月18日	対象：	教員
内容	ハイブリッド・電気自動車の基本構造を学ぶ		
研修名：	タイヤ空気充填作業特別教育	連携企業等：	日産自動車株式会社
期間：	2025年10月30日	対象：	教員
内容	交換後の自動車用タイヤに空気を充填する際の安全作業について		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	インストラクション向上研修	連携企業等：	（株）プロフェッショナルネットワーク
期間：	2025年8月22日～2025年8月23	対象：	教員・職員
内容	コーチング・コミュニケーション技法について		
研修名：	TMS研修	連携企業等：	東京海上日動メディカルサービス
期間：	2026年1月8日	対象：	教員
内容	ポジティブフィードバックを構成する結果承認・行為承認・存在承認・可能性承認について学ぶ		
研修名：	コーチ―ング研修	連携企業等：	株式会社ライフシフト
期間：	2025年12月19日	対象：	教員・職員
内容	自発的な行動を促すコミュニケーションスキルを習得する		

（3）研修等の計画
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	日産3級整備士必須講座	連携企業等： 日産自動車株式会社
期間：	2026年6月2日～2026年6月5日	対象： 教員
内容	故障診断の基本となる点検/診断方法、お客さまへの問診方法を学ぶ	
研修名：	電動パワートレイン	連携企業等： 日産自動車株式会社
期間：	2026年4月9日、10日	対象： 教員
内容	ハイブリッド・電気自動車の基本構造を学ぶ	
研修名：	中級電装講座	連携企業等： 日産自動車株式会社
期間：	2026年10月27日～2026年10月29日	対象： 教員
内容	先進運転システムの概要・制御を学習し故障診断力を向上させる	

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	インストラクション向上研修	連携企業等： 株式会社ライフシフト
期間：	2026年8月20日～2026年8月21日	対象： 教員・職員
内容	コーチング・コミュニケーション技法について	
研修名：	TMS研修	連携企業等： 株式会社ライフシフト
期間：	2027年1月7日	対象： 教員・職員
内容	ポジティブフィードバックを構成する結果承認・行為承認・存在承認・可能性承認について学ぶ	
研修名：	コーチ―ング研修	連携企業等： 東京海上日動メディカルサービス
期間：	2026年12月18日	対象： 教員・職員
内容	自発的な行動を促すコミュニケーションスキルを習得する	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針
企業等と定期的な会合を持ち、学校関係者評価、要請内容を把握し、具体的な授業科目や授業内容の編成に落とし込むことを基本方針とする。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	基準1　教育理念・目的・育成人材像等
（2）学校運営	基準2　学校運営
（3）教育活動	基準3　教育活動
（4）学修成果	基準4　学修成果
（5）学生支援	基準5　学生支援
（6）教育環境	基準6　教育環境
（7）学生の受入れ募集	基準7　学生の募集と受入れ
（8）財務	基準8　財務
（9）法令等の遵守	基準9　法令等の遵守
（10）社会貢献・地域貢献	基準10 社会貢献・地域貢献
（11）国際交流	基準11　国際交流

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況
・休退学率の低さについて、また留学生の日本語レベルについて、質問がありました。
教職員に対して外部講師によるメンタルヘルス研修を実施しました。その結果、教員が学生の特性（コミュニケーションの難しさ等）を理解して対応し、スクールカウンセラーへ繋ぐ体制を強化できた成果と考えています。
　ルビ付きの教科書は内製です。先生は、翻訳ソフトを活用しながら、指導することもあります。

・「卒業生アンケートにおけるお客様対応の評価の低下」について質問がありました。
座学および実習内でのロールプレイングを実施し、顧客対応の基礎を指導しています。また、販売会社様との連携によるインターンシップや、「Dr. K プロジェクト」の学外活動を通じ、実際の車両所有者との直接的な対話機会をつくる取り組みを検討していきます。

・国際オートメカニック科では、国家試験が終わった後の期間で、より実務に近い「定期点検の基準値」を教える機会があると、現場で即戦力になりやすいと感じます。試験対策用の知識から実際の現場で使える知識へ切り替える教育をお願いしたいと考えます。
国家試験終了後では、実際の現場を念頭に置いた教育カリキュラムを考えていきたいと思います。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名　前	所　　属	任期	種別
久田　浩一	名古屋市港区役所　区政部長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	自治体代表
野本　正之	東海日産自動車株式会社　エリア長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業代表
西　和幸	愛知県自動車整備振興会　教育部長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	団体代表
内山　晃	日産愛知販売株式会社　サービス部　課長	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	卒業生代表

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他(　　)
URL:　https://www.nissan-gakuen.ac.jp/aichi/infomation.html
公表時期:　2026年7月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
広く学校関係者に対して、教育活動等の情報提供により、説明責任を果たすと同時に、広く当校の特色をアピールする機会とする。また、教育活動の課題も示すことで、関係業界等からの理解や支援を得られることを期待する。提供する情報は、「情報提供等への取り組みに関するガイドライン」(文科省)に準じて行う。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校概要、沿革、特色、校則及び教育方針、教育基本理念、教育目標など
(2)各学科等の教育	選考方法、定員数、教育課程、成績評価基準、取得資格、進路状況など
(3)教職員	教職員数、組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、企業との実習、就職支援の取組み状況など
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事、課外活動への取り組み状況など
(6)学生の生活支援	学生支援への取り組み状況
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱い、就学支援の内容
(8)学校の財務	貸借対照表、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9)学校評価	自己点検・自己評価、学校関係者評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法
(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他(　　)
URL:　https://www.nissan-gakuen.ac.jp/aichi/infomation.html
公表時期:　2026年7月31日

授業科目等の概要

	（工業専門課程 自動車整備・カーボディマスター科）															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			オリエンテーション	１年間の授業、行事などの概要を理解し、目標と時期を整理するために実施する。 目指す目標の目的を理解し、達成するためにはどのような過程でどのような努力が必要かを考える。	1前	19.2		○			○		○		
2	○			基礎自動車工学	自動車の基本的な構造、構成部品を理解する。	1前	17.6		○			○		○		
3	○			エンジン構造１Ｆ	４ストローク１サイクルガソリンエンジンの構造、作動を理解する。	1前	49.6		○			○		○		
4	○			シャシ構造１Ｆ	1.動力伝達装置の構成する各機構の構造、作動を理解する。（クラッチ、マニュアルトランスミッション） 2.タイヤ、ホイールの構造、作動を理解する。	1前	49.6		○			○		○		
5	○			電装品構造１Ｆ	1.自動車に使用されている電装品を理解するために、電気の基本を理解する。 2.バッテリの構造、機能、整備を理解する。	1前	49.6		○			○		○		

6	○			エンジン１Ａ	1. エンジンの基本的な構造を学ぶために行う。 2. エンジンの分解、組み付け方法と、基本注意事項を学ぶために行う。 3. エンジン分解後の各部の測定方法、調整方法、良否判定を学ぶために行う。 4. 自動車に使用されている電装品を理解するために、電気の基本を理解する。	1前	44.8				○	○		○		
7	○			エンジン１Ｂ	1. エンジンの基本的な構造の復習と共にＤＯＨＣを学ぶために行う。 2. エンジンの分解、組み付け方法と、基本注意事項を学ぶために行う。 3. ノギス、マイクロメータ、ダイヤルゲージ、シリンダゲージ等を使った測定を学ぶために行う。 4. エンジン分解後の各部の測定方法、調整方法、良否判定を学ぶために行う。 5. 半導体を理解する。	1前	44.8				○	○		○		
8	○			シャシ１Ａ	1. 工作機械の操作及び危険を理解する。 2. ボルトの特徴を理解する。 3. 工作作業を通して、物の大切さを理解する。 4. 自動車に使用されている電装品を理解するために、電気の基本を理解する。	1前	44.8				○	○		○		
9	○			シャシ１Ｂ	1. 計測機器を使用し、クラッチの分解、組み立て、点検調整ができ、作動が理解できる。 2. クラッチのトラブルシューティングができる。 3. マニュアルトランスミッションの分解組み立てを理解し、機能と構造を理解する。 4. マニュアルトランスミッションの動力伝達と変速比の計算ができる。 5. プロペラシャフトの構造、機能、構成部品の理解。	1前	44.8				○	○		○		
10	○			車両１Ａ	1. 実習授業で車両を取り扱う方法と注意点を学び、実際のお客さまの車両を取り扱うことへつなげる目的で行う。 2. ジャッキアップで作業する場合の作業方法、そのときの注意点を学ぶために行う。 3. タイヤ脱着の基本手順を学び、作業姿勢、工具選択の重要性を理解するために行う。 4. 自動車に使用されている電装品を理解するために、電気の基本を理解する。 5. リレー、複合スイッチの点検方法を学ぶ。	1前	44.8				○	○		○		

11	○			車両１Ｂ	1.実習授業で車両を取り扱う方法と注意点を学び、実際のお客さまの車両を取り扱うことへつなげる。 2.リフトアップで作業する場合の作業方法、そのときの注意点を学ぶために行う。 3.ベルト、T/M,サスペンション脱着の基本手順を学び、作業姿勢、工具選択の重要性を理解するために行う。 4.配線図の読み方を学ぶ。	1前	44.8				○	○		○		
12	○			エンジン構造１Ｓ	1.４ストローク１サイクルエンジンの構造、作動を理解する。 2.エンジンの電子制御装置の構造、作動を理解する。	1後	49.6		○			○		○		
13	○			シャシ構造１Ｓ	ブレーキ装置を構成する各機構の構造、作動を理解する。	1後	49.6		○			○		○		
14	○			電装品構造１Ｓ	1.電気の基礎的な原理法則を理解する。 2.始動装置の構造、作動を理解する。 3.点火装置の構造、作動を理解する。	1後	33.6		○			○		○		
15	○			自動車法規１Ｓ	1.自動車の道路運送車両の保安基準に関わる項目を理解する。 2.国家２級試験法令問題を理解する。	1後	20.8		○			○		○		
16	○			エンジン１Ｃ	1.ジーゼルエンジンの基本的な構造を学ぶために行う。 2.ガソリンエンジンとジーゼルエンジンの構造の違いについて学ぶ。 3.ジーゼルエンジンの分解、組み付け方法と、基本注意事項を学ぶために行う。 4.ジーゼルエンジン分解後の各部の測定方法、調整方法、良否判定を学ぶために行う。 5.点火装置の構成部品、構造を理解する。 6.スパークプラグの構造、種類を理解する。	1後	52.8				○	○		○		

17	○			エンジン１Ｄ	1.電子制御の基本的な仕組みを学ぶために行う。 2.テスタを使用して、各種センサの基本的な点検ができる。 3.コンサルト３の取り扱いの基礎を学ぶ。 4.オルタネーターの　構成部品、構造、作動を学ぶ。 5.オルタネーターの分解、組み付けができる。	1後	49.6				○	○		○		
18	○			シャシ１Ｃ	1.FF車の構造、特徴を理解する。 2.トランスファの機能と構造を覚える。 3.ラックアンドピニオンの機能と構造を覚える。 4.バーフィールドジョイントの機能と構造を覚える。 5.始動装置の構造、作動を理解する。 6.スターターモータの分解、組みつけができるようになる。 7.スターターモータの点検方法を学ぶ。	1後	52.8				○	○		○		
19	○			シャシ１Ｄ	1.ディファレンシャルの機能と構造を覚える。 2.LSD（差動制限型ディファレンシャル）の機能と構造を覚える。 3.ファイナルギヤのバックラッシュ測定。ファイナルギヤの歯当り測定。 4.センターディファレンシャルの機能を覚える。 5.ワイパーの構成部品、構造を理解する。 6.ワイパーボードを利用し簡単な故障探究を学ぶ。	1後	49.6				○	○		○		
20	○			車両１Ｃ	1.ドラムブレーキの分解、組み付け調整ができる。シューの残量　ホイールシリンダー分解、組み付け含む。 2.ディスクブレーキの分解、組み付け調整ができる。パット残量　キャリパーオーバーホール含む。 3.ディスクローター、ハブベアリングの測定又は、異常判定が出来る。 4.ブレークフルードの交換ができる。 5.制動倍力装置の簡易点検ができる。 6.バッテリーの比重の測定方法ができるようになる。	1後	52.8				○	○		○		○
21	○			車両１Ｄ	1.実習授業で車両を取り扱う方法と注意点を学び、実際のお客さまの車両を取り扱うことへつなげる目的で行う。 2.法定１年点検が販社で定められた基準時間内でできることを目的で行う。 3.ディスク・ブレーキ・パッドの交換ができることを目的で行う。 4.お客さま応対（電話応対） 5.計器装置の構成部品、作動を理解する。	1後	49.6				○	○		○		○

22	○			エンジン整備２Ｆ	ジーゼルエンジンの燃料装置の構造、作動を理解する。	2前	49.6		○			○		○		
23	○			シャシ整備２Ｆ	1.動力伝達装置のオートマティックトランスミッションの構造、作動を理解する。 2.動力伝達装置の整備、故障原因探求を理解する。 3.アクスル及びサスペンション装置のボデーの振動及び揺動を理解する。 4.ステアリング装置の構造、作動を理解する。 5.ホイールアライメントの構造、機能を理解する。	2前	49.6		○			○		○		
24	○			電装品整備２Ｆ	1.バッテリの機能を理解する。 2.自動車に使用されている電装品を理解するために、電気の基本（半導体）を理解する。 3.エアコンディショナの構造、作動、整備を理解する。	2前	49.6		○			○		○		
25	○			エンジン２Ａ	1.ガソリンエンジンの電子制御（噴射、スロットル、点火等）を理解する。 2.コンサルト（ダイアグノーシス）で自己診断、アクティブテスト等ができる。 3.コンサルトを使用して故障探求ができる。	2前	44.8				○	○		○		○
26	○			エンジン２Ｂ	1.エアコンサイクルを学ぶ。 2.エアコンガス回収、真空引き、チャージ方法を学ぶ。 3.オートエアコン自己診断を学ぶ。 4.ブロアーモータ回路を学ぶ。 5.ベルト、ライト、ワイパーなど部品脱着を学ぶ。	2前	44.8				○	○		○		○
27	○			シャシ２Ａ	1.トルクコンバータの構造、作動、性能を理解させる。 2.プラネタリギヤの構造、作動、計算を理解させる。 3.ギヤユニットの構造、作動、点検を理解させる。 4.油圧制御の概要、変速制御の仕組みを理解させる。	2前	44.8				○	○		○		

28	○			シャシ２Ｂ	1.サスペンションの構造、機能を理解する。 2.フロントサスペンション（ストラット型）の分解組み付けができる。 3.リヤサスペンション（トーションビーム型）の分解組付けができる。	2 前	44.8				○	○		○		○
29	○			車両２Ａ	1.実習授業で車両の取り扱い方法と注意点を学び、実際のお客さまの車両を取り扱うことへつなげる目的で行う。 2.重量物脱着を行う場合の作業方法、そのときの注意点を学ぶために行う。 3.共同作業の大切さを学ぶために行う。 4.繊細な作業、大胆な作業の判断を付けるために行う。	2 前	44.8				○	○		○		○
30	○			車両２Ｂ	1.パワーウインドウの概要・回路を理解する。 2.ドアロックの概要・回路を理解する。 3.ドアミラーの概要・回路を理解する。 4.車両から指定された部品の取り外し、組み付け調整が行える。	2 前	44.8				○	○		○		○
31	○			日産資格試験	日産整備士資格3級の学科試験を受験する	2 後	1.6		○			○		○		○
32	○			エンジン整備２Ｓ	1.ジーゼルエンジンのコモンレール式燃料噴射装置の構造、作動を理解する。 2.ジーゼルエンジンの電気装置について理解する。	2 後	20.8		○			○		○		
33	○			シャシ整備２Ｓ	1.動力伝達装置のインタアクスルディファレンシャルの構造、作動を理解する。 2.アクスル及びサスペンション装置の構造、作動を理解する。 3.ホイール及びタイヤの機能、整備を理解する。 4.ブレーキ装置の構造、作動を理解する。 5.電気装置（安全装置及び付属装置）の構造、作動を理解する。	2 後	20.8		○			○		○		

34	○			自動車検査２Ｓ	1.自動車の道路運送車両法に関わる項目を理解する。 2.国家２級試験法令問題を理解する。	2後	20.8		○			○		○		
35	○			自動車整備応用２Ｓ	国家試験模擬問題の実施及びその解説により、国家二級試験に出題される自動車整備知識を深める。	2後	106		○			○		○		
36	○			エンジン２Ｃ	1.ＥＶ、ＨＥＶの基礎知識を習得させる。 2.低圧電気について理解させる。 3.ＥＶ安全作業を理解させる。 4.応急手当を習得させる。	2後	52.8				○	○		○		○
37	○			エンジン２Ｄ	1.日産3級実技試験を実施する 2.エンジン分野では、故障探求を更に進める 3.エアコン冷凍サイクルの不具合現象の確認と故障探求をする 4.エンジンの主要なセンサとアクチュエータの脱着をする 5.コモンレール式高圧燃料噴射装置を実車確認する	2後	49.6				○	○		○		○
38	○			シャシ２Ｃ	1.制動倍力装置の構造、作動を理解する。 2.エア・ブレーキの構造、作動を理解する。 3.整備結果説明を理解する。	2後	52.8				○	○		○		○
39	○			シャシ２Ｄ	1.実習授業で車両の取り扱い方法と注意点を学び、実際のお客さまの車両を取り扱うことへつなげる目的で行う。 2.ボディーコートについて学ぶ 3.ガラス撥水について学ぶ 4.シャシ分野総合復習 5.ブレーキフルード＆エンジンオイル交換。	2後	49.6				○	○		○		○

40	○			車両２Ｃ	1.実習授業で車両の取り扱い方法と注意点を学び、実際のお客さまの車両を取り扱うことへつなげる目的で行う。 2.法定2年点検を理解し実施できる。 3.正しく記録簿が記入できる。 4.検査ラインが使用できるようにする。	2後	52.8				○	○		○		○
41	○			車両２Ｄ	1.実習授業で車両の取り扱い方法と注意点を学び、実際のお客さまの車両を取り扱うことへつなげる目的で行う。 2.共同作業の大切さを学ぶために行う。 3.繊細な作業、大胆な作業の判断を付けるために行う。 4.点検作業に付帯する、定期点検部品の交換作業ができる。 5.サーキットテスタを用いて正確に測定ができるようになる。	2後	49.6				○	○		○		○

42	○			日産3級	日産資格　車体3級、塗装3級を受験する	C3・T3後	3.2		○			○		○		○
43	○			車体整備概論	1.自動車の主要構造を理解する。 2.自動車の車体材料を理解する。 3.自動車の強度、力学の計算方法を理解する。 4.乗用車の構造、機能を理解する。 5.トラック、バスの構造、機能を理解する。	C3・T3前	36.8		○			○		○		
44	○			車体整備理論前期	1.車体整備の目的を理解する。 2.板金について理解する。 3.溶接について理解する。	C3・T3前	92.8		○			○		○		
45	○			エアブラシ	・エアーブラシを実践する事によりボカシの技術を身につける。 ・色の3原色を使って調色ができる。 ・フリーハンドで絵が描けるレベルになる。 ・クリヤーによる仕上げ作業ができる。	C3・T3前	73.6				○	○		○		○
46	○			骨格修正	・フレーム修正機の基礎的な取り扱いを理解する。 ・フレーム修正機とその関連機器を理解する。	C3・T3前	73.6				○	○		○		○
47	○			塗装	・自動車の塗装、塗料について理解する。 ・自動車塗装作業に於いての作業工程とその工順を理解する。 ・補修塗装の機工具の取り扱いができる。 ・調色の手順とソリッド・メタリック・パール塗装手順を理解する。 ・ボカシ塗装と磨き手順を理解する。	C3・T3前	76.8				○	○		○		○
48	○			板金	1.板金作業の安全について 2.ハンマー・ドリー等の使用方法を理解する 3.溶接部の研磨について理解する 4.パネルの凹凸について理解する 5.板金パテの成形、研磨を理解する	C3・T3前	65.6				○	○		○		○

49	○			溶接	・各種溶接の原理、特長とその溶接作業の基礎を理解する。 ・酸素・アセチレンガス溶接作業について理解する。 ・電気アーク溶接について理解する。 ・電気抵抗スポット溶接について理解する。 ・ガス・シールドアーク溶接について理解する。 ・ドリルの取り扱いと研磨について理解する。	C3・T3前	60.8				○	○		○		○
50	○			車体整備理論後期	1.ボデー・フレーム修正用機器について理解する。 2.乗用車の整備について理解する。 3.トラックの整備について理解する。 4.損傷診断について理解する。 5.塗装について理解する。	C3・T3後	133		○			○		○		
51	○			車体総合	・板金塗装の一連の流れを理解する。 ・外装のあらゆる不具合の対応を理解する。 ・車体整備の責任を理解する。	C3・T3後	49.6				○	○		○		○
52	○			車両制作塗装	・熱硬化性樹脂の種類と、塗装準備について理解する ・ＦＲＰ部品への塗装技術を理解する ・カスタムボデーを作成する中で塗装技術を理解する	C3・T3後	154				○	○		○		○
53	○			車両制作板金	・熱硬化性樹脂の種類と部品制作工程を理解する ・ＦＲＰでの部品制作を理解する ・カスタムボデーを作成する中でＢＰ技術を理解する	C3・T3後	130				○	○		○		○
54	○			樹脂	・プラスチック素材の性質や修正方法を理解する。 ・プラスチックの素材の見分けができる。	C3・T3後	41.6				○	○		○		○
合計					54　科目			2800							単位時間	

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	全ての教科において既定出席率を満たし、未履修がなければ卒業を認める。	1学年の学期区分	2 期

履修方法： 学科は各期に二度、実習は各テーマ終了後に試験を実施し、60点以上で履修とする。	１学期の授業期間	25 週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について〇を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。